

## 特集「システムソフトウェアの新しい潮流」の 編集にあたって

高 橋 延 匡†

本特集号は「システムソフトウェアとオペレーティングシステム研究会 (SIGOS)」が中心となり、21世紀に向かって、この分野の研究開発の新しい波の発信を意図したものである。

SIGOSは、1973年に「システム評価研究会」として発足し、以来「計算機システムの解析と制御」「計算機システムの制御と評価」「オペレーティング・システム」を経て、1993年から現在の名称になり時代の潮流を先取りしながら研究会が続いてきた。特に、通常の研究会に加えて、1992年からは「コンピュータシステムシンポジウム」を毎年開催し、そのときどきの研究対象に広い視点で対応してきた。研究開発対象や環境とOSも、汎用大型タイムシェアリングシステム、汎用メインフレーム、ワークステーション、UNIX、ネットワーク、分散環境、マルチメディア、モバイル、並列分散、組込型などと、時代の先端的な研究対象について、その理論から実現まで多岐にわたってきた。

本特集は、時代の変局点ということを意識し「システムソフトウェアの新しい潮流」とした。

本特集号の編集・査読にあたっては、ゲストエディタを私が担当し、研究会の幹事、連絡員の方々を中心に編集委員会を構成した。各投稿論文に対しては、専門に近い編集委員と、投稿者の組織と異なることを基準としたメタレビューアと、メタレビューアと異なる2人のレビューアを選定した。投稿論文数は、16件で、査読の結果、11件が採録された。採録率は69%であった。前回の特集では、投稿論文数は19件で、採録件数は14件であった。採録率は73%であったので、件数は若干減ったが、中身の濃い論文を採録できた。

採録された論文の分野も、オペレーティング・システムの方式とか構成法といった問題から、組み込みシステム、移動体、ネットワーク、並列処理などこの分野の特徴が凝縮された形になった。

最後に、本特集号の発行のため、年末年始の期間を中心に、並々ならぬご努力をしていただいた、編集委員の方々をはじめ、メタレビューア、レビューアの方々に心から深謝する次第である。また、この特集が、21世紀に向かって、新しい潮流を作り出す契機となることを願うものである。

[システムソフトウェアの新しい潮流] 特集編集委員会

- 編集長  
高橋 延匡 (拓殖大)
- 編集委員 (順不同)
  - 石川 裕 (新情報)
  - 柴山 茂樹 (キヤノン)
  - 並木美太郎 (農工大)
  - 西尾 信彦 (慶應大)
  - 徳田 英幸 (慶應大)
  - 谷口 秀夫 (九州大)
  - 木下 俊之 (日立)
  - 多田 好克 (電通大)
  - 岡本 利夫 (東芝)
  - 高野 陽介 (NEC)
  - 光澤 敦 (NTT)
  - 樋地 正浩 (日立)
  - 福田 晃 (奈良先端大)
  - 大久保英嗣 (立命館大)
  - 早川 榮一 (拓殖大)
  - 猪原 茂和 (日立)
  - 河野 真治 (琉球大)
  - 高田 広幸 (豊橋技科大)
  - 中島 達夫 (北陸先端大)
  - 加藤 和彦 (筑波大)

† 拓殖大学